

保育所の1・2歳児の運動遊びについて

—— 保育者の援助を中心に ——

● 黒 岩 英 子
(西南女学院短期大学)

青 山 優 子
(第一保育短期大学)

1、はじめに

昨年の本学会において、学生が行った保育所実習における運動あそびについて報告したが、学生たちは子どもの思いを受け止めながら遊ぶことに、困難を覚えていたことが判明した。そこで筆者自身が直接子どもたちと遊び、授業の中で具体例をあげ援助の仕方や遊びの展開の方法を講じる必要があると考えた。

一方、保育所入所児の低年齢化が進行しているがこの時期は身体運動の基本が獲得される時期である。それは、運動的な遊びによって大部分が達成されるといっても過言ではない。

では保育所の1・2歳児はどのような運動遊びをしているのだろうか。またその援助はどのようなことであるのか。この二つの問題を解決するために保育所での実践を分析考察する。

なおこの場合の援助とは、子どもの発達を助長し遊びの展開に作用する活動としておく。

今回は青山が乳児保育所において5月から実施しているレッツ運動を研究の対象にする。

2、方法

北九州市内 R 乳児保育所での毎月1回の運動遊び

対象 1歳児クラス(前半)・(後半)、2歳児クラス

場所 S 寺本堂および保育所の園庭

年月 2002年5月から11月まで

運動時間 各クラス約25分

3、結果と考察

1)、1歳児(前半)クラスの運動遊び

① 運動遊びの種類と運動の種類

ダンボールやとび箱、巧技台、マット、大型積み木、木製トンネル、ボール等で遊ぶ。

運動の種類は押す、引く、登る、這う、潜る、転がる、叩く、転がす、投げるなど基本的なものである。

② 保育者の援助 (10月本堂)

子どもの活動を C、環境の設定と保育者の援助を A、保育士の活動と振り返りを N とし、実践経過を記す。
C、ボールを転がしたり投げたりして追いかける。

A、転がしたボールを「まてまて」と言いながら子どもの動きを誘う。

C、ダンボールは子を押して遊ぶ。

A、大きなダンボール箱を出してトンネルに見立て、トンネルくぐりへと誘う。

A、天井部分に少し傾斜をつける。

C、傾斜のついたトンネルにボールを投げる。

A、つぶれたダンボール箱を魔法のじゅうたんに見立て、後方へと引っ張っていく。その際子どもがバランスを崩して倒れないようにゆっくり行う。

N、ボールだけでなくダンボールをプラスすると、遊びに展開が見られ、子どもの気づきから遊びも広がってきたと感じる。子どもたちと一緒に遊びに加わることで、子どもが遊びだす姿をとらえることができるようになってきたと思う。見守ることも必要だが、一緒に遊び、遊びを見つけ出すことも大切な援助だと思う。

以上より保育者は動きを誘う言葉を発し、環境を整えることも援助といえる。つぶれたダンボール箱を魔法のじゅうたんにして遊ぶという展開をしたことから、遊びを見つけ出すことも援助といえる。

2)、1歳児(後半)クラスの運動遊び

① 運動遊びの種類と運動の種類

ダンボール箱(大小)、平均台、巧技台、跳び箱、マット、大型積み木、トンネル、ボール、タイヤを使用し様々に組合わせて遊ぶ。

運動の種類は、箱に入る、押す、潜る。座る、投げる、平均台を様々の方向で渡る、とび降りる、登る、這い上がる、叩く、引っ張る、立ち上がる、またいで進む、転がる、蹴る、よじ登る、滑る、連なって座る、後方に下がる、持ち上げる、静止(ポーズ)、腹ばいになりバランスをとる、押しながらくぐる、動くダンボールの上に立ってバランスをとる、中に入る(隠れる)など、種類もまし運動の組み合わせも多く見られる。

② 保育者の援助 (9月本堂)

A、大小様々のダンボールを無造作に配置する。

C、ダンボールを目にするや、嬉しそうに部屋中、押して回る。

N、動きに合ったBGMを流す。

A、遊びにスムーズに入っていくことができない子どもには一緒に押したり引いたりすることにより、徐々に気持ちを盛り上げていく。

N、保育士もできるだけ子どもの側で同じ動きをして、

やってみようとする気持ちになるようにする。

C、とび降りる・バランスをとるなどは一人ひとりが自分の運動能力に合わせた動きでやっている。

A、ダンボールの上に立ったり、とび降りたり、バランスをとったりする時は、子どもが一人でしようとする気持ちは受け止めながら危険のないよう介助する。
C、引っ張られるダンボールの上に立ちバランスをとることは難しく、すぐに座り込んだり、その場から離れる。しかし座って引いてもらい喜んでいる友の姿を見て再度仲間に加わる。

A、バランスをとることは難しいので、ゆっくり引く。また足を広げ身体全体でバランスをとる方法を知らせる。

C、立ってバランスをとろうとする際、膝を曲げ低い姿勢になる子もいる。

A、時間がきたがまだ遊びたい気持ちの子どもがいることを感じ、「車庫まで運転しよう」と声をかけ無理なく片付けを行うようにする。

以上より、保育士も一緒にダンボールを持ちあげたり、同じ動きをすることにより、子どもの気持を活動へと誘っていることから、同じ運動をするということが援助の一つにあげられる。

また、気持ちをうけとめながら、危険のないように介助することも大事な援助である。そして気持ちを汲み片づけも遊びの延長にしたことも援助である。場合により運動の要領を教えることも大事である。

3)、2歳児クラスの運動遊び

① 運動遊びの種類と運動の種類

歩く・走る・止まるなどを表現して遊ぶ。亀・うさぎ・かえるになる。積み木・平均台で遊ぶ。歌にあわせていろいろな動物になって遊ぶ。遊具などに隠れる。グー・チョキ・パーの歌遊びでねこになる。保育士と遊ぶ。巧技台・とび箱・マット・大型ソフト積み木で遊ぶ。ボールを使って遊ぶ。障害走用固定遊具で遊ぶ。かけっこ、障害走。木製トンネル、タイヤ、すべり板、プラスチック製のL型トンネルで遊ぶ。

運動の種類は、歩く・走る・足踏み・止まる・転がる・四つんばいになって這う・両足跳び・ジャンプ。隠れる・前転・後転。渡る・積み上げる・投げる・足で挟む・シュート。よじ登る・回転・潜る。ぶら下がる。引きずる・タイヤを転がす・斜面を滑る。斜面をかけ降りるなど多彩になっている。高さに挑戦する運動が見られる。

②、保育者の援助（11月園庭）

A、タイヤやその他の遊具を無造作に配置する。

C、ほとんどの子どもがタイヤを手にし、遊具の間を器用に転がす。二人組で抱えて歩いたり、引きずったりして地面にできる模様を楽しむ。

N、L型トンネルを2個くっつける。

C、顔を出したり引っ込めたりして隠れんぼごっこを楽しむ。（単独にしている時は単に出たり入ったりの一人遊び）

A、高さの異なる遊具を組み立てる。

C、滑り板にしゃがんだり、寝そべったりして滑る。しかし、徐々に動きが大胆になり、立ってリズムをつけてかけ降りる。3～4回跳び跳ねて降りる等自分の運動能力を考えて遊びを展開する。

T、必ず側に保育士がつき、危険のないように見守りながら、介助していく。

C、平均台にまたがり下から上に手だけで進むのは難しいと分かる止める子が多い。

A、上から下に進むように指導する。

C、体を平均台にうつ伏せてどンドン下に降りる。

以上より1歳児に共通の援助が多いことが分かる。しかし、高さの異なる遊具を組み立て子どもの能力に応じてエネルギー活動の活動を行っている。

重いタイヤを抱える等という力を使った遊びを戸外で十分に発揮させたという援助がみられる。

表1 保育者の援助

	援 助 内 容	1歳前半	1歳後半	2歳
環境面	遊具を配置する	◎	○	△
	組替え・組み合わせる	○	◎	◎
	片づける(子どもと共に)	△	◎	○
運動面	動きを誘う	◎	○	○
	運動を見せる	◎	△	△
	運動を教える	◎	◎	○
	一緒に遊ぶ	◎	◎	△
	補助・介助する	△	◎	◎
	見守る	△	○	○
心情面	承認・賞賛	◎	○	◎
	共感	△	◎	◎
	助言・激励	△	○	◎

◎やや多い、○多い、△少ない

4、おわりに

基本的な動作を獲得する乳幼児の運動として、ダンボールを使用する遊びは、有効であることが分かる。保育者の援助の内容は1歳児に対しては直接的援助が多いが、2歳児に対しては言語を使用した援助が多い。

保育者は子どもの運動発達の過程を把握しながら活動を展開することが重要である。